

## 実践まとめシート（１年次）

研究グループ	地域を発見探究	実践グループメンバー	石橋（１年）、棟方（２年）、藤田（３年）
--------	---------	------------	----------------------

実践タイトル
『地域人材を活用した防災教育を通じた知的障害を有する高等部生徒の地域発見探究』
<p>I 問題と目的</p> <p>1 はじめに</p> <p>2022年8月9日、津軽地方を中心に朝から激しい雨が断続的に降り、記録的な大雨が観測された。弘前市は、岩木川氾濫の危険性の高まりから、避難情報で最も高い警報レベル5の「緊急安全確保」を9地区に発令し、5万1588人が対象となった。県内においても10市町村に避難指示などが発令され、りんご農家をはじめ、鯺ヶ沢町や西目屋村では河川の氾濫による甚大な被害が生じた。</p> <p>弘前市、平川市、藤崎市、西目屋村、田舎館村等から通学している本校高等部の生徒の中には、警報レベル5の「緊急安全確保」が発令された地区に居住する生徒もあり、いつどこで発生するか分からない災害に対する学習の重要性について改めて考える機会となった。文部科学省は、『学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開（2015）』において、「発達段階に応じた防災教育の目標を設定し、障害のある児童生徒については、幼小中高それぞれの校種における目標に加え、障害の状態、発達の段階、特性及び地域の実態等に応じて、危険な場所や状況を予測・回避したり、必要な場合には援助を求めることができるようにする。」と記載していることから、生徒を取り巻く地域に関する学習の重要性がうかがえる。</p> <p>高等部の生徒は卒業後、自宅のある地域や職場・施設のある地域で生活するため、職場・施設や通勤経路等、様々な場で被災する可能性があり、被災した際にどのように行動すれば良いのか、困ったときにどこに行けば良いのかが分かり、被災時に行動できるようにする必要がある。そのためには、被災時に命を守るための地域資源（物的、人的）について学び、災害についての学習を通して「地域の発見探究」につなげていきたいと考えた。</p> <p>また、実際に地域の安全のために活躍している人材を講師に招聘し、対面で災害についての話を聞いたり、疑問点を質問したりすることで、学校での教師との授業だけでは感じ取ることが難しい、地域とのつながりを意識した気付きや学びが得られるのではないかと考えた。</p> <p>本実践では、知的障害を有する高等部生徒が防災教育を通し、地域の人的・物的資源について学びを深め、今後起こりうる災害や、地域社会生活への適応へとつなげていくことを目的とする。</p> <p>2 実践概要について</p> <p>高等部全生徒を対象に、地域の外部人材を講師に招聘し、12月6日に「豪雨災害について考えよう」を生活単元学習で実施する。講師はNPO法人青森県防災士会の職員（以下、外部講師）に依頼した。防災士は地域の防災を担う民間資格として2003年に誕生し、防災士会は地域の自主防災率向上に加え、災害弱者とされる障害者、高齢者、子供対象の防災教室の実施にも取り組んでいる。</p> <p>地域の安全のために活動されている外部講師より、防災士の活動や災害への備え、避難行動等について講義を受けた後、生徒たちが直接講師とやりとりする場面として質疑応答の時間を設定する。質問は11月22日の事前学習において豪雨災害について学んだ際に考えた内容や、12月6日に外部講師の講義を受ける中で発生した疑問点を質問できるようにする。12月13日には、外部講師より学んだ内容を整理し、お礼状を作成する事後学習を実施する。</p>

## Ⅱ 実践方法

### 1 対象生徒・学級・学習グループについて

高等部全生徒19名を対象に実施した。11月22日の事前学習、12月6日の外部講師を招聘した授業（以下、「本時の学習」とする）は、学部全体で実施した。12月13日の事後学習は、各学年（学級）ごとで実施した。

また、11月22日の事前学習、12月6日の外部講師を招聘した授業、12月13日の事後学習の全3回の授業に出席し、検証に用いる授業事前事後アンケートにおいて、自分の考えを1から4の段階で示したり、自分の考えを記述したりして回答することができる12名を検証対象とした。

### 2 実践の手続き

実践は、①事前学習「豪雨災害について考えよう」（11月22日）②外部講師招聘授業「豪雨災害について考えよう」（12月6日）③事後学習「お礼状を書こう」（12月13日）の構成で実施する。

豊沢、唐沢、福和（2010）において実施したアンケートを参考に検証用アンケートを作成し、授業の事前事後で実施する。11月22日授業前後、12月6日授業前後、12月13日授業前後の6回と、冬季休業明けの1月24日（災害の授業は行わず、事前アンケートのみ記入する）に実施する計7回のアンケートデータをもとに分析を行う。検証用アンケートは、防災意識に関する設問、地域の人に関する設問、自由記述（授業前は豪雨災害について知っていることや考え、授業後は授業で分かったこと）とし、設問1から設問6は1項目4件法で回答を求める。

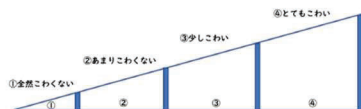
設問1から設問6の防災意識に関する項目は、検証アンケートに回答された数値の変化を比較する。また、外部講師に対して質問した生徒、感想発表をした生徒、その他の講義を聞いていた生徒に分けて数値の変化を比較する。設問7の災害時の地域の人材に関しては、検証アンケートに記入された内容を比較する。設問8の自由記述項目に関しては、分析者の主観的な解釈になることを避け、客観的な分析を行うために、フリー・ソフトウェアのKH Coder 3を用いて回答欄へ記入された内容をテキストマイニング（共起ネットワーク）で検証する。また、講師へ作成したお礼状の内容から、アンケートに記述されていない内容を記録する。

設問1	あなたは豪雨災害（大雨による災害）がこわいですか？
設問2	豪雨災害はすぐにでもやってきそうだと思いますか？
設問3	豪雨によって、あなたや家族がけがをするかもしれないと思いますか？
設問4	あなたは豪雨対策をすれば、今よりも命が安全になると思いますか？
設問5	防災学習で学んだことを教えれば、家族は今よりも豪雨対策をしてくれると思いますか？
設問6	あなたは防災学習で学んだことを、家族に教えてあげようと思いますか？
設問7	豪雨災害（大雨）の時に、どのような人たちが皆さんのために働いていますか？
設問8	授業前：豪雨災害（大雨）から、自分や家族の身を守っていくことについて、知っていることや考えていることを書きましょう。
	授業後：今日の授業でわかったことや感想を書きましょう。

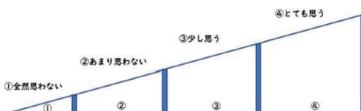
図1 アンケートの設問内容

○設問の①～⑥までは、あてはまる回答のところまで色をぬってください。  
⑦、⑧は文字を書いて答えてください。書くことが苦手な人は、書かずに話を伝えても良いです。

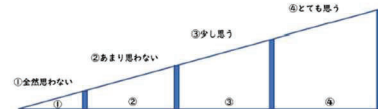
①あなたは豪雨災害（大雨による災害）がこわいですか？



②豪雨災害はすぐにでもやってきそうだと思いますか？



③豪雨によって、あなたや家族がけがをするかもしれないと思いますか？



④あなたは豪雨対策をすれば、今よりも命が安全になると思いますか？



⑤防災学習で学んだことを教えれば、家族は今よりも豪雨対策をしてくれると思いますか？



⑥あなたは防災学習で学んだことを、家族に教えてあげようと思いますか？



⑦豪雨災害（大雨）の時に、どのような人たちが皆さんのために働いていますか？

⑧豪雨災害（大雨）から、自分や家族の身を守っていくことについて、知っていることや、考えていることを書きましょう。

⑨今日の授業でわかったことや感想を書きましょう。

⑩今日の授業でわかったことや感想を書きましょう。

図2 検証用アンケート用紙

### Ⅲ 指導の実際

#### 1 事前学習「豪雨災害について考えよう」

1月22日に、高等部全体で、体育館で実施した。授業の流れは、①事前アンケートの記入、②豪雨災害について、写真やVR映像の視聴（VRゴーグル）を通して、危険について確認、③豪雨災害に被災した状況において、どのような行動をすればよいか考えてワークシートに記入・発表、④教師が防災士について紹介し、外部講師への質問を考案、⑤事後アンケートの記入、とした。

#### 2 本時の学習「豪雨災害について考えよう」

12月6日に、高等部全体で、体育館で実施した。授業の流れは、①事前アンケートの記入、②記入後に講師が入室し、防災士の働きや災害に備えた準備・行動等についての講義、ワークシートへの記入、③外部講師への質疑応答、④講師へのお礼の言葉、講師退室、⑤事後アンケートの記入とした。④では、前時に考えた災害への対処法について、質問したいと希望していた生徒が講師に対して質問をし、回答を受けた。また、挙手をした生徒が、講義を受ける中で発生した疑問を質問したり、授業の感想を発表したりした。

#### 3 事後学習「お礼状を書こう」

12月13日に、学年（学級）ごとに、各学級の教室で実施した。授業の流れは、①事前アンケートの記入、②これまでのワークシートを基に学習内容を想起、③講師へのお礼状を作成、④事後アンケートの記入とした。

#### 4 冬季休業明け

1月24日に、学年（学級）ごとに、事前アンケートのみ実施し、その後は各学級において災害以外の防災に関する内容の授業を行った。

#### Ⅳ 結果

##### 1 授業前後に実施した検証用アンケート

###### (1) 防災意識

計7回実施した検証用アンケートにおける、設問1から設問6までの回答された数値の平均値（小数第三位切り捨て）を算出（図3）したところ、事前学習実施前（11月22日前）よりも事後学習実施後（12月13日後）の防災意識への数値の高まりが確認された。

本時の学習後（12月6日後）が最も高い数値を示した。

冬季休業明け（1月24日前）においては、事前学習実施前（11月22日前）の数値を上回っていた。

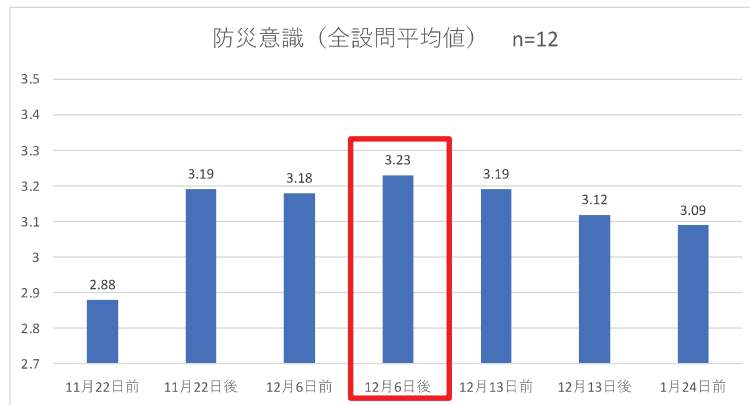


図3 防災意識（全設問平均値）

各設問で回答された数値の平均値を算出したところ、全設問において事前学習実施前（11月22日前）よりも事後学習実施後（12月13日後）の数値の高まりが確認された。

本時の学習の前後（12月6日前、12月6日後）を比較してみると、設問1「あなたは豪雨災害（大雨による災害）がこわいですか？」と、設問2「豪雨災害はすぐにでもやってきそうだと思いますか？」においては回答された数値の平均値の上昇が確認された（図4、5）。設問3「豪雨によってあなたや家族が怪我をするかもしれないと思いますか？」、設問5「防災学習で学んだことを教えれば、家族は今よりも豪雨対策をしてくれると思いますか？」、設問6「あなたは防災学習で学んだことを、家族に教えてあげようと思いますか？」においては、数値の変化はなかった（図6、8）。設問4「あなたは豪雨対策をすれば、今よりも命が安全になると思いますか？」においては、数値の低下が確認された（図5）。

冬季休業明け（1月24日前）においては、設問3「豪雨によってあなたや家族が怪我をするかもしれないと思いますか？」を除いた項目の数値が事前学習実施前（11月22日前）を上回っていた。

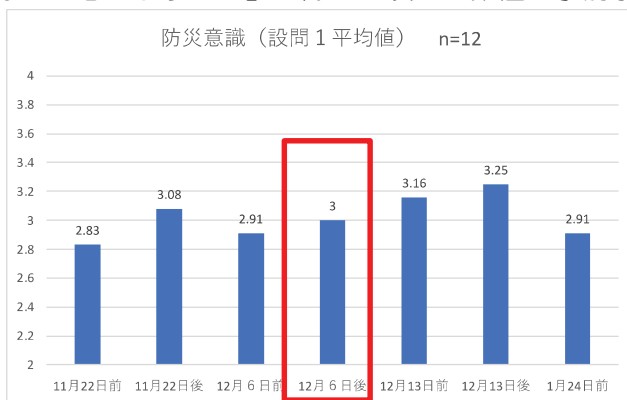


図4 設問1「あなたは豪雨災害（大雨による災害）がこわいですか？」の平均値

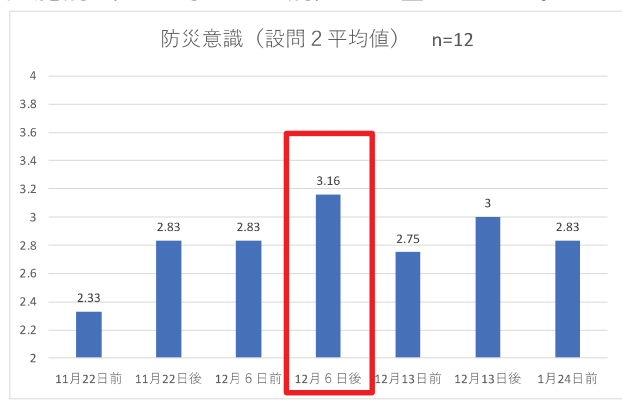


図5 設問2「豪雨災害はすぐにでもやってきそうだと思いますか？」の平均値

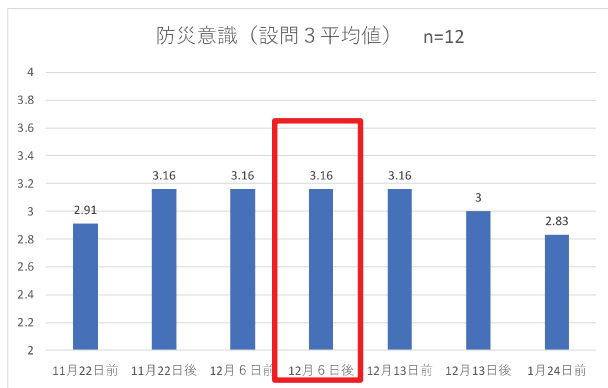


図6 設問3「豪雨によってあなたや家族が怪我をするかもしれないと思いますか？」の平均値

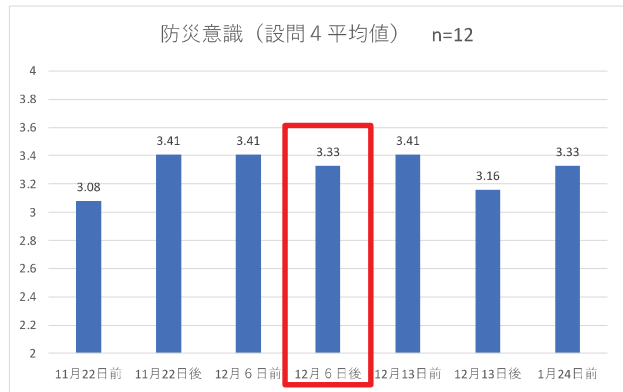


図7 設問4「あなたは豪雨対策をすれば、今よりも命が安全になると思いますか？」の平均値

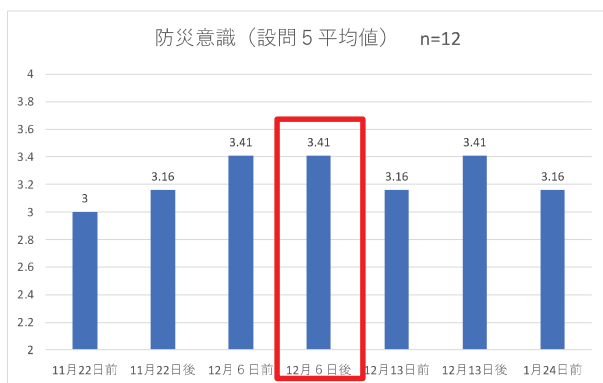


図8 設問5「防災学習で学んだことを教えれば、家族は今よりも豪雨対策をしてくれると思いますか？」の平均値

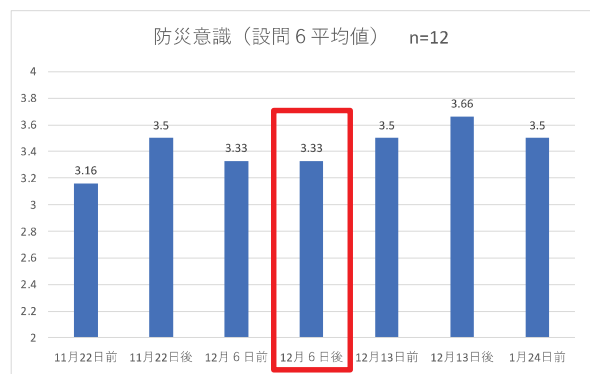


図9 設問6「あなたは防災学習で学んだことを、家族に教えてあげようと思いますか？」の平均値

また、本時の学習（12月6日）において、講師に質問をした生徒群（4名）、感想を発表した生徒群（3名）、その他、発表をしなかった生徒群（5名）に分類し、授業実施前（12月6日前）、授業実施後（12月6日後）、事後学習実施前（12月13日前）の設問1から設問6までに回答された数値の平均値を比較したところ、質問をした生徒群は授業前後において他2つの生徒群よりも高い数値を示し、授業実施前（12月6日前）よりも授業実施後（12月6日後）の数値の高まりが確認された（図10）。

感想発表をした生徒群は、本時の学習後（12月6日後）の数値の高まりが確認された。

その他、発表をしなかった生徒群は、本時の学習後（12月6日後）に数値の低下が確認された。

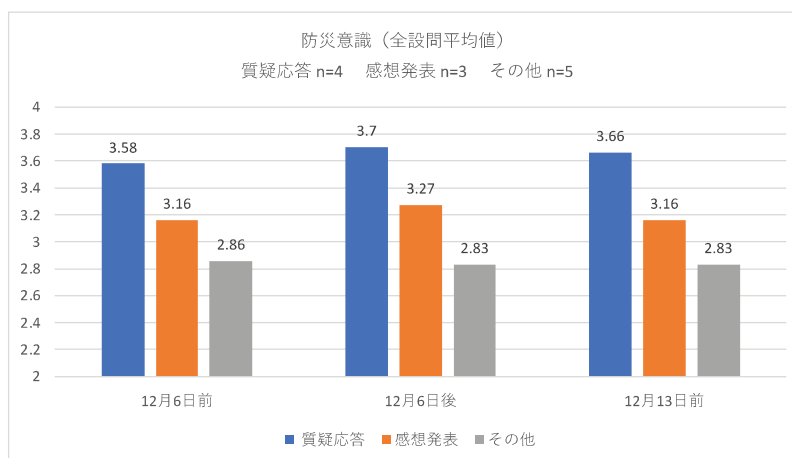


図10 質疑応答、感想発表、その他の生徒群の全設問平均値



## （２）災害時の地域の人材について

検証アンケート設問７の「豪雨災害（大雨）の時に、どのような人たちがみなさんのために働いていますか？」では、事前学習実施前（１１月２２日前）には回答欄に地域の人材についての回答を記入できた生徒は３名であったが、事後学習実施後（１２月１３日後）には９名に増加した。外部講師を招聘した授業前後（１２月６日前、１２月６日後）における回答人数を比較したところ、外部講師の授業後（１２月６日後）に回答を記入できた生徒数が６名増加した。外部講師を招聘した授業後（１２月６日後）と事後学習実施前（１２月１３日前）の差は１名であった（図１１）。

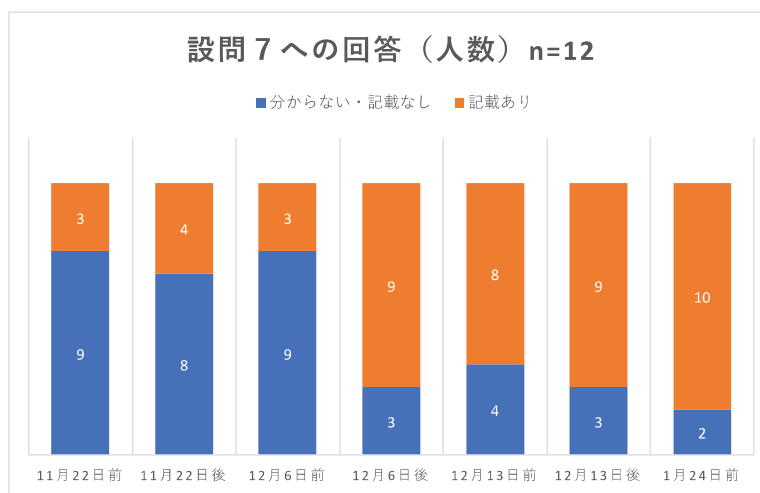


図 11 設問 7「豪雨災害（大雨）の時に、どのような人たちがみなさんのために働いていますか？」への回答人数

生徒が回答した記入内容においては、図 1 2 に示した。新たに記入された内容には下線を引いている。外部講師を招聘した授業後（１２月６日後）に回答された地域人材の種類が増加していた。また、外部講師を招聘した授業後（１２月６日後）から、避難所運営に関わる人材の記入が見られ、それ以降も維持されていた。

	設問 7 への記入内容
11月22日前	工事現場の人。消防の人。警察官。コンビニやスーパーマーケットの人。清掃員。医者。ボランティア。
11月22日後	消防の人。防災士。 <u>トモダチ作戦の人たち。自衛隊。市民や地域のボランティア。</u>
12月6日前	自衛隊。消防士。防災士。 <u>バス・電車の運転士。店の人。テレビやラジオのアナウンサー。</u>
12月6日後	自衛隊（２）。防災士（３）。バス・電車の運転士。消防士。店の人。アナウンサー。 <u>自主防災の組織。隣組組織。福祉組織。災害救助犬（２）。手話の人。避難所を案内する人。安全を確保する人。全国各地で活動している救助隊。42の団体。</u>
12月13日前	色々な人。災害防止の方。自衛隊（３）。警察。消防士（３）。災害救助犬。防災士（２）。 <u>市民。避難する場所に食料や布団などを準備している人。</u>
12月13日後	色々な人。災害防止の方。自衛隊（３）。消防士（４）。災害救助犬。警察。防災士（２）。ボランティア。避難する場所に布団やストーブを準備している人。 <u>道路をきれいにする人。地域の方。</u>
1月24日前	消防士（３）。自衛隊（２）。警察（２）。救急車の人。医者。救助隊。防災士（２）。災害防止。地域の人（２）。たくさんの色々な人。ボランティア。 <u>看護師。非常食、飲み物、ストーブなどを準備している人。避難場所を確保している人。安全な高い建物に移動している。</u>

図 1 2 設問 7「豪雨災害（大雨）の時に、どのような人たちがみなさんのために働いていますか？」に記入された内容

### （３）共起ネットワーク図における自由記述内容の分析

計7回実施したアンケートの設問8「豪雨災害（大雨）から、自分や家族の身を守っていくことについて、知っていることや考えていることを書きましょう。（授業前）」、「今日の授業でわかったことや感想を書きましょう。（授業後）」に記入された内容をもとに、テキストマイニングソフトのKH Coder3を用いて共起ネットワーク図を作成した。図13は、7回分の記入内容をもとに作成した図であり、出現回数3回以上の語を活用し、共起関係は上位300とし、語と語のつながりが複雑になることで線の数が増え解釈が困難になることを防ぐために、つながりを最小限に抑えた最小スパニングツリーのみを表示している。語と語のつながりを示す共起関係は線により表現され、線の太さによって共起の強さが示されている。また、バブル（語とともに表示される円）の大きさは抽出された語の量を示している。

KH Coder3により作成した図13の共起ネットワーク図からは、8つのサブグラフと呼ばれる分類がなされた。サブグラフの内容を整理すると、【避難行動】、【避難準備】の大項目があり、各サブグラフ内でそれぞれの項目の内容、またはそれらが複合された内容が確認された。大項目を細分化すると、【人】、【自分の命】、【地震】、【大雨】、【家】、【非常食】、【避難】、【対応方法】と分類できた。

【避難】の「避難」という語は最も多く記入された語であり、「避難場所をマップや家族と相談して確認する」、「防災マップを確認して避難場所を探しておく」、「避難情報を確認して避難場所に向かう」等の記入内容が確認された。

【大雨】の「逃げる」という語も多く記入された語であり、「大雨が降ってきた時はすぐに逃げる。」、「外出中に大雨が降った時は、高い建物に逃げる。」、「親の迎えが無理だった場合アプリーズに逃げれば良いことが分かった。」、「電車が動かなくなった場合のアプリーズに逃げれば良いことが分かった。」等の記入内容が確認された。

【人】の「人」という語に関しては、「家族や近所の人のお話を聞く」、「災害救助犬や、いろんな人が協力していることが分かった」、「自衛隊や福祉施設の人等たくさんの方が助けている」等、地域の人材を意識した記入内容が確認された。また、「地域の人に避難場所を案内する」、「落ち着いて自分の命を守りながら、ほかの人も助ける」、「手話の人には、手話で伝える」、というような地域の人に対して自分が助けになろうという気持ちが込められた内容も確認された。

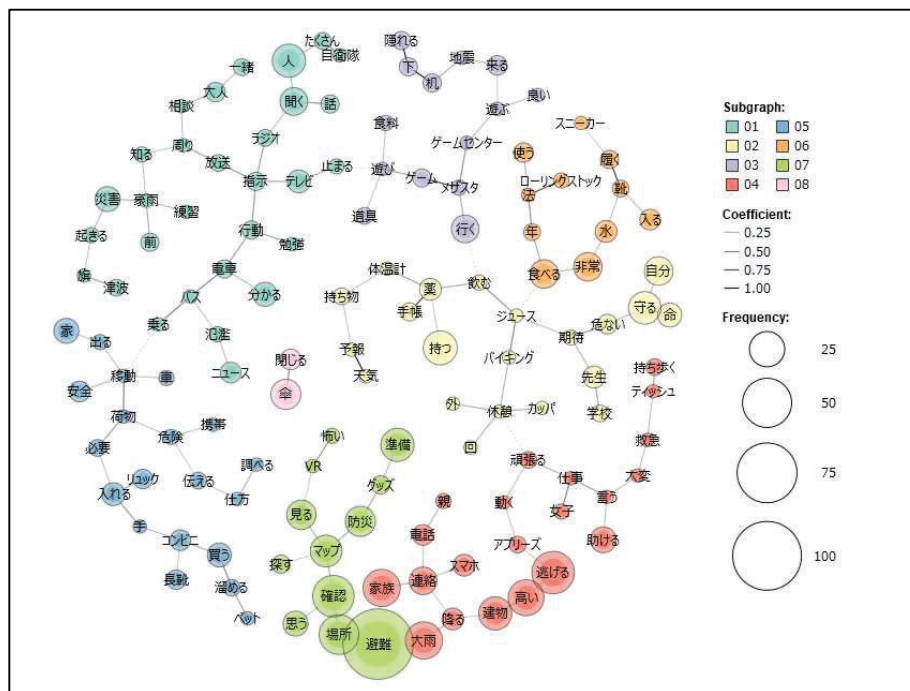


図13 設問8の記入内容から作成した共起ネットワーク図（7回分）

事前学習開始前（１１月２２日前）に実施した設問８「豪雨災害（大雨）から、自分や家族の身を守っていくことについて、知っていることや考えていることを書きましょう」で記入された内容から作成した共起ネットワーク図を図１４として示した。出現回数は２回以上の語を活用し、共起関係は上位６０の設定で作成した。共起関係が強いほど線が太く示されている。記入された内容をもとにテキストデータを作成し、KH Coder3 を用いて共起ネットワーク図を作成する際に抽出された語の数は、４７０語であった。

図１４では、５つのサブグラフが構成されており、【避難行動】、【避難準備】の大項目のもと、細分化すると、【避難】、【大雨】、【対応方法】、【命】、【情報収集】に分類できた。

【避難】の「避難」という語がもっとも多く抽出されており、「すぐに避難する」「ニュースを見て平川、岩木川が氾濫しそうであれば避難する」、「非常食を持って避難する」等の内容が記入されていた。

【命】の「守る」という語も多く抽出されており、「一人の為に命を削って守る」、「家族を守る」、「学校の先生を守る」等の他者の命を守りたい気持ちが込められた内容が確認された。

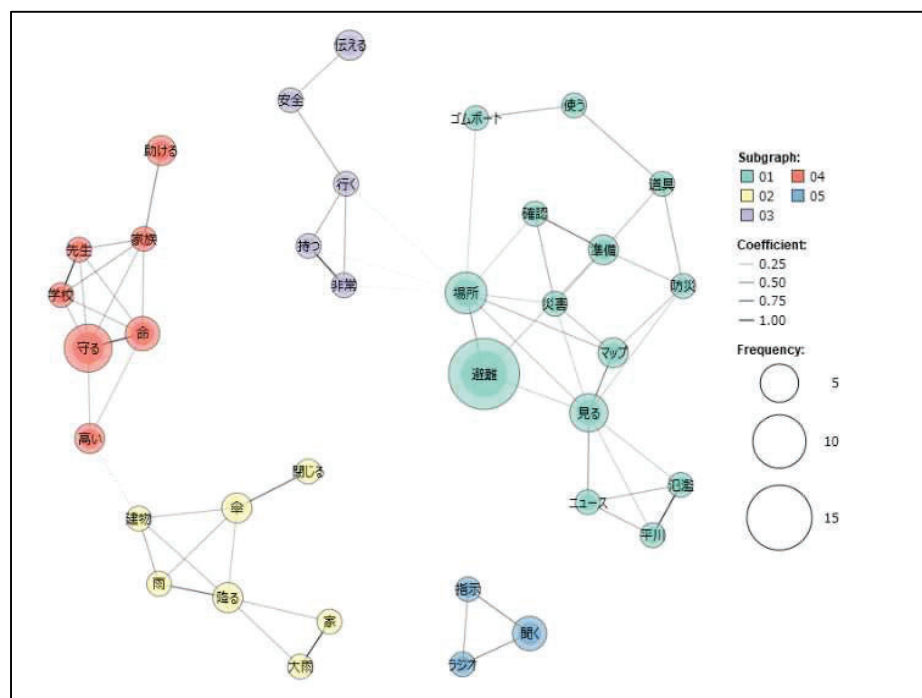


図１４ 設問８の記入内容から作成した共起ネットワーク図（１１月２２日前）

外部講師を招聘した授業後（１２月６日後）に実施した設問８「今日の授業でわかったことや感想を書きましょう」で記入された内容から作成した共起ネットワーク図を図１５に示した。出現回数は２回以上の語を活用し、共起関係は上位６０の設定で作成した。共起関係が強いほど線が太く示されている。記入された内容をもとにテキストデータを作成し、KH Coder3 を用いて共起ネットワーク図を作成する際に抽出された語の数は、７９１語であり、事前学習実施前（１１月２２日）と比較すると、３２１語増加していた。

図１５では、事前学習実施前（１１月２２日前）よりも５つ増加した１０のサブグラフが構成されていた。【避難行動】、【避難準備】の大項目のもと、細分化すると、【災害種に応じた行動】、【状況に応じた行動や準備】、【人】、【自分ごと】、【気持ち】、【避難時の持ち物】、【避難】、【豪雨への対応】、【地震への対応】、【安全マップ】に分類できた。

事前学習実施前（１１月２２日前）と同じく、【避難】の「避難」という語がもっとも多く抽出されており、「確認」という語も多く抽出されていた。「休みの日とかに家族と一緒に避難する場所を確認して実際練習してみたいと思った」、「家族と避難場所の確認をする。」、「避難所を家族で決めておく」「家に一人にいるときに避難指示の呼びかけがあったら、テレビやラジオで情報を確認する」等の内容が記入されてい



た。

【災害種に応じた行動】では、大雨の際の避難行動や、海で旗が振られていたら津波が来るかもしれないという知識など、知識の広がりや状況に応じた行動の具体化が確認された。外部講師は豪雨災害を中心としながらも、地震、津波、Jアラート等、様々な状況における避難行動についても説明されていた。外部講師が伝えた内容が生徒たちの記入に反映されていることが確認された。

【状況に応じた行動や準備】では、「バスや電車に乗っているときの対応は、運転手や車掌さんの指示に従って行動する」、「電車を通勤で使うので車掌さんの話を聞いて行動する」、「ローリングストック法を使って1年に1回食べてみたり、避難ルート等確認してがんばる」等の、具体性のある記入内容が確認された。

【自分ごと】では、「自分用の防災グッズを準備する」、「カップラーメンは自分で作って食べてみるのも良い」等、外部講師の話から、自分用の防災グッズを準備することや自分でできることを行う必要があることを受け取った生徒の記入が確認された。

【避難時の持ち物】では、「避難する時の持ち物は、リュックに日用品や食品、体温計を入れる」「薬の手帳、体温計等持って行く」、「防災グッズの中にもし薬を飲む人はお薬手帳を準備すればいいと分かった」等、外部講師の話から自分に必要なものを具体的に記入している内容が確認された。

【豪雨への対応】、【地震への対応】においても、対応方法が具体的に、簡潔に記入されていた。

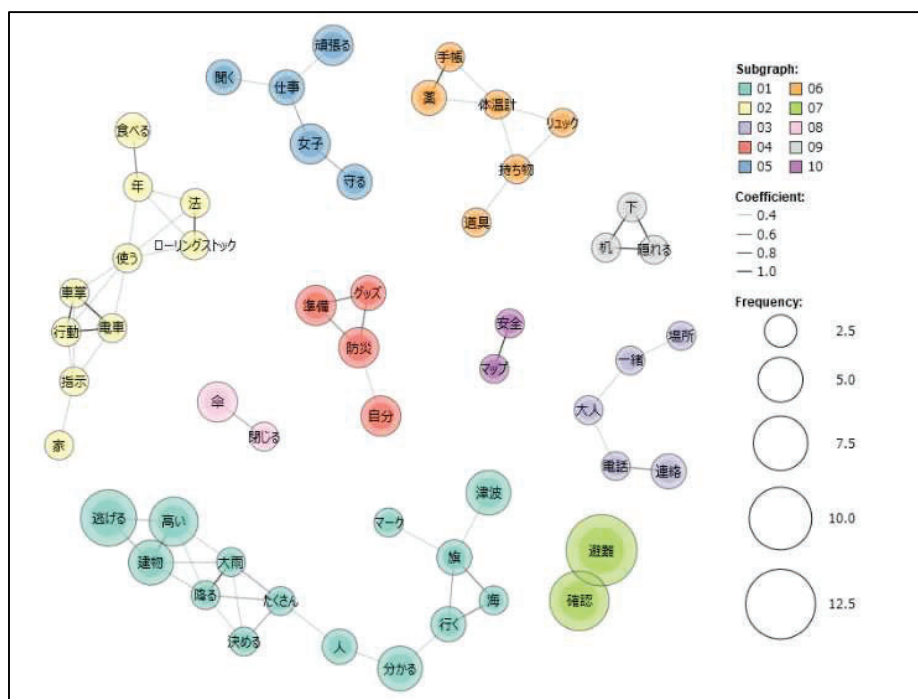


図1-4 設問8の記入内容から作成した共起ネットワーク図（12月6日後）

#### （4）講師へのお礼状の内容

事後学習（12月13日）では、外部講師の授業時に記入したワークシートやメモを参考にお礼状作成を行なったため、検証用アンケートへ記入した内容が確認された。「大雨のときには高い建物に避難する」、「家族で避難所を確認しておく」という内容が多くある中で、「防災士なるのが夢なので勉強をがんばりたい」や、「今まで通勤のときに災害にあうことがわかっていなかった。車掌さんがどういう対応をするのか自分が動けるか不安で知りたいと思いました」等の、アンケートからは確認されなかった生徒の考えも確認された。

## V 考察と課題

### 1 地域人材を活用した防災学習について

検証用アンケートにおいて、事前学習実施前（11月22日前）よりも事後学習後（12月13日後）防災意識の高まりが確認され、今回実施した防災教育が防災意識の向上に一定の効果を与えたことが示唆された。また、本時の学習後（12月6日後）の防災意識が最も高い値を示していたことから、地域の専門家との直接的な関わりが防災意識の向上に影響を及ぼしていることが示唆された。

外部講師との直接的なやりとりが発生した生徒群（質疑応答、感想発表）は、本時の学習前後（12月6日前、12月6日後）での防災意欲の向上や、事後学習実施時（12月13日前）の防災意欲が本時の学習（12月6日前）の数値を上回っていることから、専門家との直接的なやりとりが多いほど防災意欲が向上し、維持されることが示唆された。そのため、地域の専門家を招聘する授業内容を構成する上で、専門家と生徒が直接的にやりとりをし、関わり合う場面を意図的に設定することが、防災意識を高める上で有効な手立てとなるのではないかと考えられた。

### 2 地域発見・探究について

検証用アンケートの設問7「豪雨災害（大雨）の時に、どのような人たちがみなさんのために働いていますか？」に対し、本時の学習後（12月6日後）に回答できる生徒数が増加したことから、防災士という地域人材の存在は、災害を起点として地域と自分のつながりに気づき、地域の人的資源に向けての視野を広げ、関心を高める効果があったのではないかと推察された。

設問8の自由記述内容から作成した共起ネットワーク図からは、外部講師との関わりから生徒たちが受け取った内容が可視化されたことにより、事前学習実施前（11月22日前）と比較して本時の学習後（12月6日後）は、避難行動、避難準備等、生徒の防災に対する考えが具体化されていることが確認できた。避難所や高い建物等の地域の物的資源や公共交通機関、河川や海等の自然、災害マップ、地域の人材等、災害という一側面を通して地域のリソースへの興味・関心が高まり、生徒の記入する内容が具体化されたことは、生徒が災害を起点とした地域発見探究を行えたことにつながるのではないかと推察された。

### 3 課題

今後検討すべき課題として、継続した地域人材との学習機会の設定が挙げられる。今回の実践では外部講師を招聘して学校で実施する形式で学習機会を一回設定したが、オンラインや学校でできる課題等のやりとりを通して年間の中で地域人材とやりとりができる機会を増やしていくことで、防災意識の維持・向上や地域資源への興味・関心が拡大していくのではないかとと思われる。

また、実際に地域に出て、生徒と地域人材との自然発生的な関わり合いを積み重ねながら地域のリソースを活用していくことで、生徒の学びがより深まるのではないかと考えられる。そして、生徒個々の居住地域に落とし込んだ内容で実施することが、将来の地域社会への適応や災害に備えた避難行動・避難準備につながっていくと考えられる。

## VI 参考・引用文献

文部科学省（2015）『学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開』インターネット、  
<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/mextshiryou/data/saigai03.pdf>（2023/10/27にアクセス）  
豊沢純子・唐沢かおり・福和伸夫（2010）「小学生に対する防災教育が保護者の防災行動に及ぼす影響—子どもの感情や認知の変化に注目して—」『教育心理学研究』第58号, pp.480-490.  
岩山絵理（2021）「特別支援学校のセンター的機能に関する研究動向—論文タイトルに対するテキストマイニングを用いて—」『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要』第6号, 愛知教育大学, pp.45-49.